



2023.12.20 大学・大学院クリスマス賛美礼拝

# 泉

題字・河井道  
2023年度 第5号  
2024年3月13日発行

二〇二三年度が間もなく終わろうとしています。大学の学生募集停止の理事会決定を受け入れてから一年近くとなります。そのような中にあっても希望を忘れず勉学に励む学生たちの姿に勇気づけられつつ、本年度のすべての学事日程をつつがなく終えることができました。皆様のお支えに感謝いたします。

この間、内外から数々の励ましとねぎらいの言葉をいただきました。苦しい時こそ味わえる言葉の有難みと力を痛感いたしました。そのいくつかをご紹介します。この一年を振り返ってみたいと思います。

学生募集停止発表に際して何よりも私が胸痛めたことの一つは、母校をなくす卒業生たちのことでした。しかし、「私たちの母校はなくなりません」という言葉をいち早く届けてくれたのも卒業生たちでした。「多摩キャンパスで教職員の方々から大切に育んでいただいた教員の数々は、今の私の中にたしかに生き続けています」「在学生のためにできることはなんでもいたします」等々のメッセージが多くの教職員のもとに届けられました。

こうした先輩たちの存在が在学学生たちの励みとなったことは言うまでもありません。昨秋の恵泉祭に学生たちが掲げたテーマ「想う」には、同じキャンパスで学んだ先輩方を想い、創立

者河井道先生の心を共に受け継いでいけるよう、最後まで恵泉の学びを精いっぱい吸収するとの決意がこめられていました。

学外から寄せられた言葉もまた、これまで本学の教育に尽くしてきた教職員にねぎらいと誇りをいただけるものでした。

「恵泉女学園大学は、創立者である河井道先生の精神を根本原理とし、きわめて良質な教育をテラーメイドで施している、日本の高等教育においても稀有な存在です。恵泉が大切にしている理念を、今後も、全国

子大の意義はけっして衰退していかない。むしろ、競争に勝ち抜くだけでなく、弱者への視線を持つ人材を育てることに注力した恵泉の閉校は、そうした大切な理念が認められにくい現在の日本社会の病理を浮き彫りにしている。河井道先生の女子教育の理念と、それを女子高等教育にたしかに受け継ぎ開花させることを目指した恵泉ブランド「生涯就業力」の意義を認めてくださった記事でした。

内外からの励ましの言葉の数々を思い起こせばなおのこと、

## 大学募集停止決定から一年

大学学長 大日向雅美

のキリスト教大学全体で継承していきたいと思えます」とのメッセージを発信してください。たのは、立教大学総長(キリスト教学校教育同盟理事長)の西原廉太氏でした。

ともすると募集停止の原因は少子化と女性活躍推進の中で女子大の意義が衰退したことにあるとする指摘がある中、「選択」(三万人のための情報誌…二〇二三年六月号)には「恵泉の事例は一つの女子大の失敗ではなく、より大きな社会矛盾が大学現場に表出したとみるべきだ」との論稿が掲載されました。女

生一人ひとりに最後まで恵泉女学園大学の教育を伝えることに他なりません。本学を果立つとき、「母校は永遠に私たちの心の中で生き続けています」と言う先輩たちに続いてくれるように、との願いをこめて、日々、学生たちの学びと学修支援に尽くしております。

二〇二三年度を無事に終え、二〇二四年度開始を間近にしている今、私は年初の大学ホームページ「学長の部屋」のメッセージに記した旧約聖書 コヘレトの言葉「一章六節 朝に種を蒔き/夕べに手を休めるな」をここに今一度引用させていただきます。結果を思いわずらうことなく、絶望することなく、たえず祈り続け、考え続け、努力を惜しまない大切さを説くこの言葉こそ、今、多摩キャンパスで大切な学生をお預りさせていただいている私たち教職員一人ひとりがひと時も忘れてはならない言葉とっております。それが、恵泉女学園大学創設以来、尽くしてきた教育の真髄を最後まで世に問い続ける姿勢だと信じております。無力感に苛まれることなく、いたずらに過去に感傷的になることなく、今、与えられているものに一つひとつ丁寧な力を尽くさせていただきます。

引き続き、皆様のお祈りとお支えをいただけますようお願い申し上げます。